

大河と共に生きるには

学校法人都築育英学園リンデンホールスクール中高学部3年

津田 実来

「あれ？きれいになってる！」

いつの間にか綺麗になっていた河川敷のサイクリングロードに私は目を見張った。

福岡県の筑後地区に住んでいる私は、よく筑後川沿いのサイクリングロードを利用する。太陽に照らされてキラキラ輝く水面を横目に、心地いい風に吹かれてサイクリングをするのは爽快だ。

普段は美しく穏やかな筑後川だが、大雨時になるとその表情を一変させる。筑後地区は近年、数十年に一度と言われるほどの大雨が頻発していて、梅雨の季節になると街や田んぼは浸水し、農作物にも甚大な被害をもたらしている。大雨の時期に市民が特に気にしているのは、一級河川、筑後川の氾濫だ。幸いにも、今のところ大きな氾濫は起きていないが、大雨が降るたびに河川敷は水没し、雨が上がった後は、草木や泥が流れ込みめっちゃくちゃになってしまう。

つい先日もその大雨が降り、街中の人々は復旧作業に取り掛かっていた。私は河川敷の様子が気になっていたので、近くを通りかかった際に川の方へ寄り道してみた。河川敷に着いて周りを見ると、先日の大雨で流れ込んだ流木や土砂はすっかり片づけられていて、いつものサイクリングロードに戻っていた。驚きと同時に、私はあれほど荒れていた河川敷を毎回どのようにして片づけているのだろうと疑問に思った。

そこで、私の住んでいる地域で今年起こった大雨災害の被害総額について調べてみた。農業で約23億円、商工業で約14億円、総額36億5千万円もの被害があったそうだ。私は、大雨災害でこれほどの被害が出るとは想像も出来なかった。

次に、災害の復旧作業がどのようにして行われているかを調べた。すると、「税金」が災害被害の復旧に深く関わっていることが分かった。例えば、大雨のせいで陥没した道路があったら、その道路の復旧工事の費用は税金で賄う。その他にも、河川敷や街に流れて来た土砂の掃除費用などにも税金が使われている。

さらに、税金は災害対策にも使われているということが分かった。そのうちのひとつが今、私が住んでいる街で行われている大規模な貯水槽建設工事だ。それだけではなく、筑後川の水位を確認できるライブカメラを設置して、市のホームページで配信なども行っている。市は市民の安全を守ってくれていたのだ。そのためには税金が必要で、私たちにとっては無くってはならない存在なのだと思います。

今までは、税金と言われるとどうしてもネガティブな印象になりがちだったが、様々な形で私達の身を守ってくれているという事を知って、私は税金へのありがたみを感じた。税金がどのように私達の暮らしを支えてくれているかを理解した上で納税することが、明るい日本の未来を築く第一歩だと思う。